

平川流路工



平川は、姫川上流域に位置し、白馬連峰の唐松岳、五龍岳を水源とする急流河川であることから、土砂流出が激しく、何度も流路を変えながら大きな扇状地を形成しています。このため、土砂流出に伴う土砂災害から保全するため、昭和37年度から上流域の砂防堰堤の整備が進められ、平川下流域の河床の安定、流路の固定、洪水の氾濫防止のために平川流路工が整備されています。

平川流路工は、昭和47年に着工、平成2年11月に完成し、扇状地一帯の住居や別荘、宿泊施設等を土砂流出の被害から守り、山岳リゾートの発展に寄与しています。

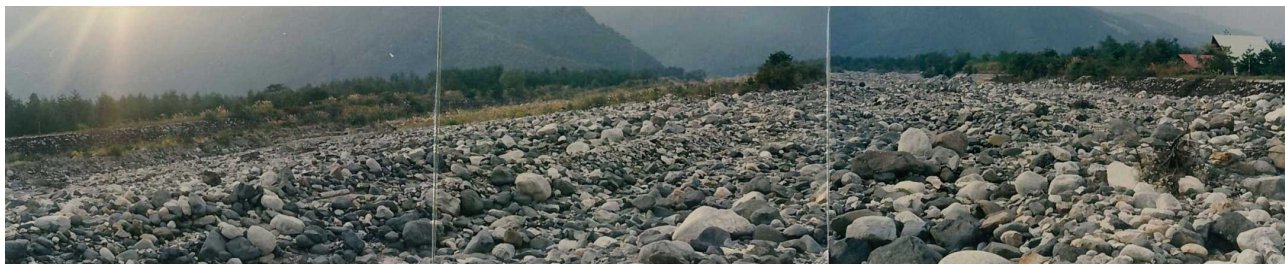
施工の概要

床固工6基、帯工34基で構成され、床固工には魚道が整備されており、魚類の生息環境に配慮した施設として施工されました。

諸元表

工作物名		平川流路工				施工期間		昭和47年～ 平成2年11月11日	
施行地先名		長野県北安曇郡白馬村北城				河川名		姫川水系平川	
計画諸元	地質	流域面積	洪水流量	扞止量	貯砂量	調節量	元河床勾配	計画河床勾配	
		蛇紋岩	26.8 km ²	460 m ³ /s	—	—	—	—	1/27
構造諸元	流路工	延長 (m)	流路工巾 (m)	床固数 (カ所)	床固立積 (m ³)	帯工数	帯工立積 (m ³)	護岸 (m ³)	
		3,850	50～70	6	—	34	—	—	

施工状況



着工前（下流から上流を望む）

(S52)第4号帯工地点



コンクリート打設状況



護床工（ブロック据付完了）

(S52)第4号床固工



玉石張り工 作業状況

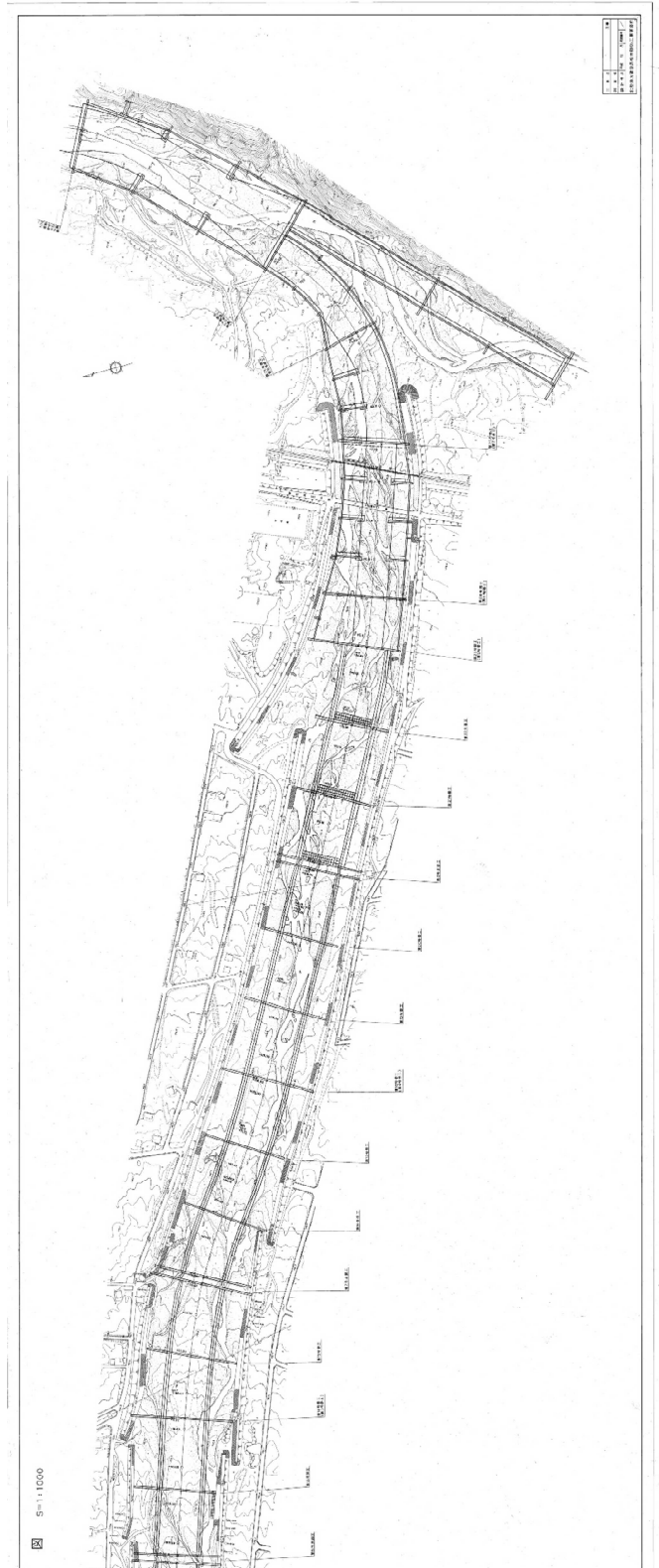


魚道ブロック据付状況

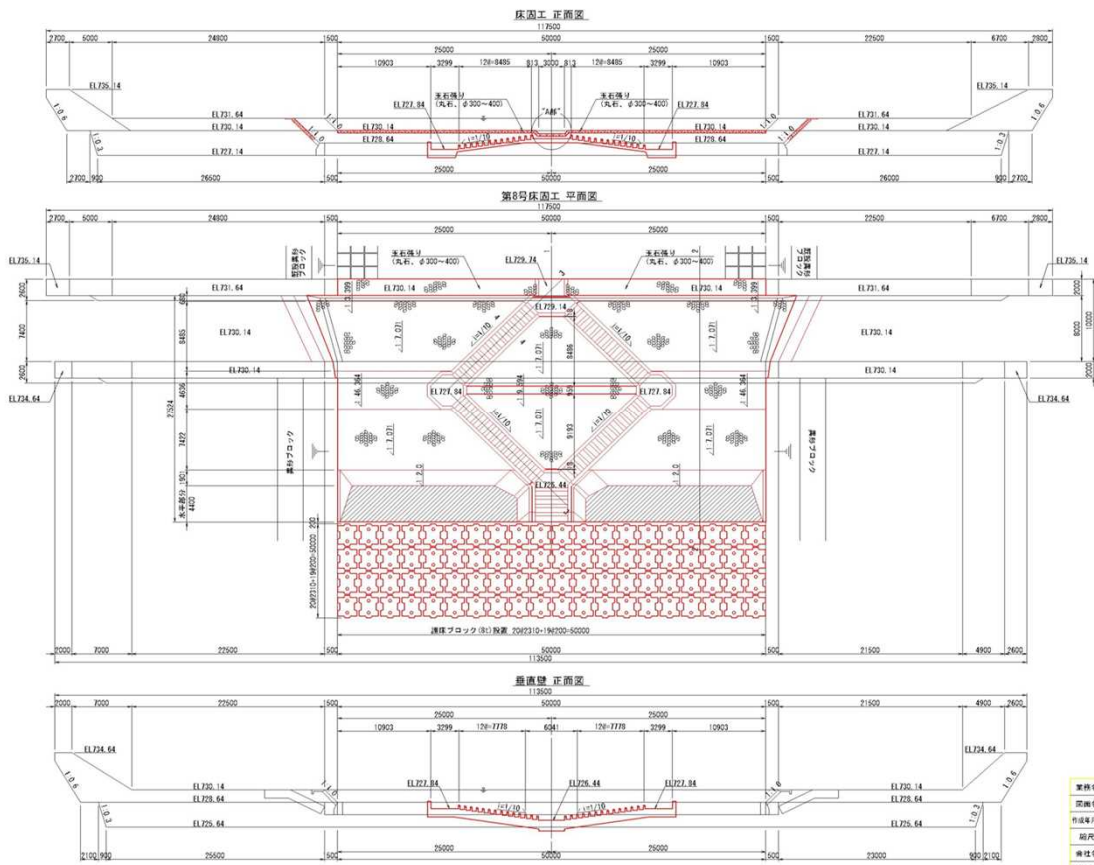


完 成（第8号床固工 魚道）

構造図



第8号床固工 魚道構造図(その1) S=1/200



第8号床固工 魚道構造図(その2)

